

アンデス山中に残る古道

わたなべ しんや
渡部 森哉
南山大学教授



インカ帝国時代の道を歩いてみた

ウエコ・デル・インカ（インカのくぼみ）という名前のついた
インカ道の一部とわたし
（掲載写真はすべてペルーにて2002年に撮影）

南米大陸に15世紀から16世紀にかけてインカ帝国という国が栄えた。現在のペルー共和国を中心に、南北4000キロメートルという広大な範囲を支配下におさめていた。地方の住民を統制するために帝国が整備した道は、現在「インカ道」とよばれ、世界遺産にも登録されている。



現在のインカ道

わたしは二〇〇二年にペルー北部高地のインカ道を、直線距離で三〇〇キロメートル、実際には四〇〇キロメートルにわたる、二〇日間かけてテント



インカ道

を担いで歩いた。インカ道は、ペルーとボリビア、エクアドル、チリ、アルゼンチン、コロンビアの六カ国で世界遺産に申請され、二〇一四年に登録された。二〇〇二年当時、断片的な調査はあったのだが、考古学者が長距離を実際に歩いて調査したという例は聞いたことがなかった。ペルー南部に位置する首都クスコ周辺のインカ道の一部が観光用に整備されていただけであり、ペルー北部における調査は皆無であった。

遺跡の発掘調査をしていたわたしを、フェリペ・バレラという人物が突然訪ねてきた。研究者ではなく、「カミナンテ（歩く人）」を名乗り、自分が歩いたインカ道について滔々（とうたう）と語った。見た目はじつに怪しい。彼が見つけたというインカ道を見に行くと、それは本当にあり、数時間歩いてみた。そして、インカ道の調査には、部分的な点ではなく道という線で確認することの必要性を実感した。わたしはフェリペと一緒に約三週間歩くことを決心した。

きな石がエクアドルまで二〇〇〇キロメートル以上も運ばれたことがわかってる。

インカの道はある場所から次の場所へ移動するのに、最短のルートをとる。急斜面もまっすぐに進むその道は歩くと疲れる。登山道であれば少しずつ登り、景色のいいところを通過し、尾根のそばを進む。しかし、インカ道に景色は関係なく、ある地点からある地点までを一気に進む。現代の車道であればくねくね曲がるが、車輪が使われなかったインカ道では、登り道も基本的に最短距離で移動する。



ワンカパンバ川に残る朽ち果てた橋の痕跡

山地のインカの道を歩いて気づいたのは、川沿いに走ったり川を横切ったりすることが頻繁にあるということである。登山経験のあるわたしは、いちばん重い荷物である水を運搬しなくてよいように設計されているのだと感心した。しかし、逆にそれがすぐに放棄される原因ともなった。川を横切るといふことは、橋をかけるということであり、定期的なかけ替える維持作業が必要となる。アンデスの吊り橋はマゲイという植物製であり、腐食するため二年に一回のペースでかけ替えなければならなかった。維持作業が滞れば、すぐに放棄される。

インカ道の建設は労働力を投下する対象でもあったのだろう。というのもインカ道はそれ以前の道を再利用して建設したのではなく、新規に造られたものだから、効率を重視して整備されたわけではないのである。少なくともインカ道沿いにある遺跡はすべてインカ期のものであった。インカ帝国は先行する文化の成果を取り入れた集大成と言われているのであるが、インカの人びとはゼロから道や建物を造ったのである。

現在、ペルー北部の人びとは、インカの道の存在をほとんど知らない。多くの部分が廃道となっているためである。アンデス山脈は南北に連なる。現在は、高地にある目的地に向かうには、海岸地帯から山地に入る東西の道が主流である。山から山へ南北に移動するインカ道は途切れ途切れになり、長距離移動に利用されることはなくなった。また、川を渡るには、橋が利用されていたのだが、それが朽ち果てた箇所では渡渉しなければならなかったため、徒歩での移動はより困難なものとなっていた。

インカ道歩くためにはまず、どれがインカの道かを同定する必要がある。インカ道は宿駅のように各地に設置された行政センターと行政センターを繋いでいる。だからインカ時代の行政センターであった遺跡から歩き始める。そこから伸びる道は必ずある。ところが途中でしばしばわからなくなる。見失った場合は、スペイン人が残した記録と現在の地図を対照させながら、ルートを推定する。そうしたところを狙っていくと、道がある。多くのインカ道は、斜面を切り崩した形で建設されているので形態からも判断できる。また現在多くが廃道となっているインカ道は、修繕して再利用されていないがゆえに、逆に同定しやすい。そして歩いてみると未登録の見たいことも聞いたりすることもない遺跡に遭遇する。

インカ道の意味

車輪をもたなかったアメリカ大陸の古代文明。インカ道をとおりるのは人間のほかにリヤマとアルパカというラクダ科動物に限定され、現在も車がおとることはない。動物に頼らず、人力で多くのものを運んだ記録もある。例えばクスコ周辺で切り出した建築用の大



インカ道の真ん中に建つ家。平らだから建設したそうだと